



「安心」を、見えやすく。

安全運転ファクトブック2026

アクサは安全運転啓発に取り組んでいます

本書の位置づけ

アクサ損害保険は、保険商品でお客さまをお守りすると同時に、幸せな日常を一瞬にして変えてしまう自動車事故を少しでも減らしたいという思いから、この「安全運転ファクトブック」を作成しました。

このファクトブックは、「自動車事故」について、当社が保有する各種統計データから読み取ることができる現状と、そこから導き出された事故防止ポイントを、専門家監修のもと取りまとめています。

当社のご契約者さまはもとより、広く一般の皆さまにも、どうしたら自動車事故を防ぐことができるのか、ファクトブックをきっかけに考えていただき、自動車事故の防止に役立てていただければ幸いです。

当社は、アクサグループのパーパス（存在意義）「すべての人々のより良い未来のために。私たちはみなさんの大切なものを守ります。」のもと、今後もお客さまやそのご家族の人生に寄り添うパートナーであることを目指しています。大切なものを守りながら、お客さま自らが望む人生を歩んでいただけるよう、アクサならではのアドバイス、商品やサービスを通じて、皆さまに安心をお届けしてまいります。

2026年（令和8年）2月

アクサ損害保険株式会社 安全運転啓発室

もくじ

1. 最新データで見る事故のリアル【アクサ損害保険の取扱い事故データ】	3
2. 疾病が引き起こす自動車事故【疾病と自動車事故の関係】	9
3. 発生件数が多い小さな事故にご注意【小規模事故の傾向と注意点】	13
4. 自動車事故は身近にあります！【事故経験者の体験談】	20
5. 交通心理学から学ぶ事故防止のポイント 【注意の分散が引き起こす事故と、その防ぎ方】	27
6. アクサが行う安全運転啓発室の取組み【自動車事故の減少に向けて】	31



1. 最新データで見る 事故のリアル

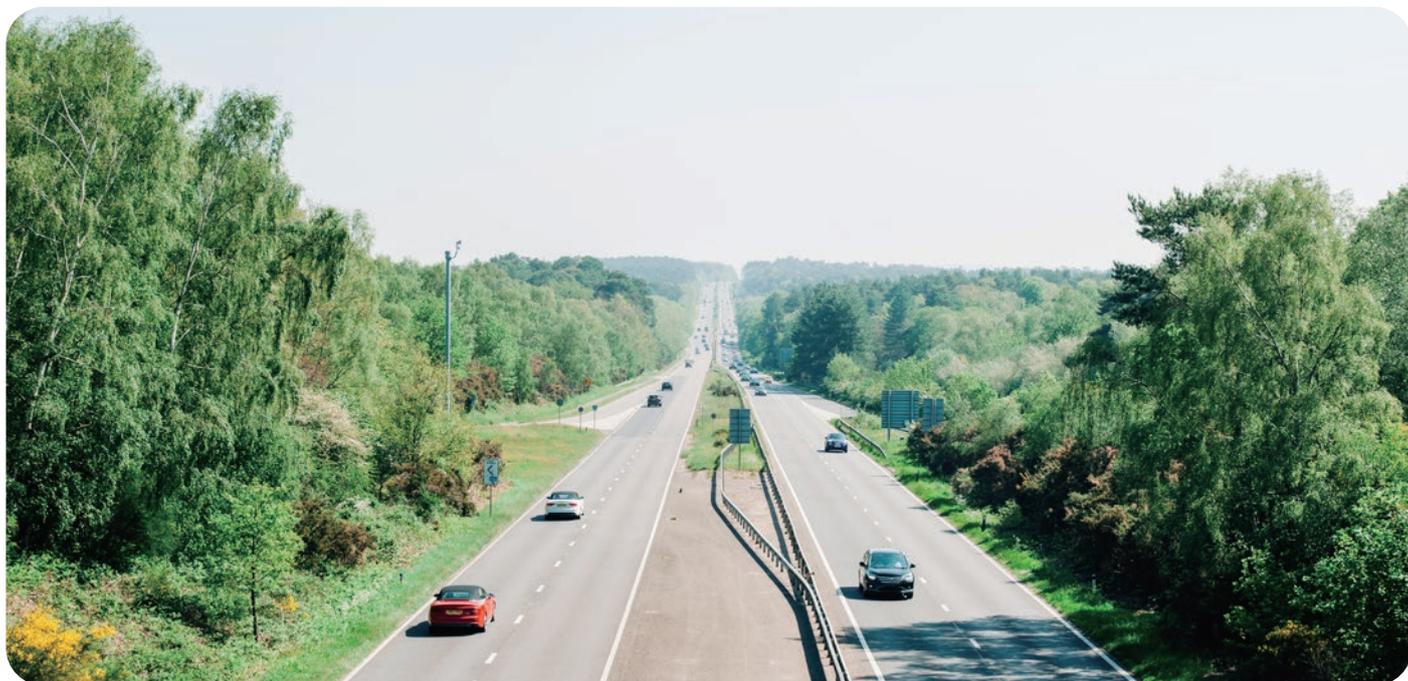
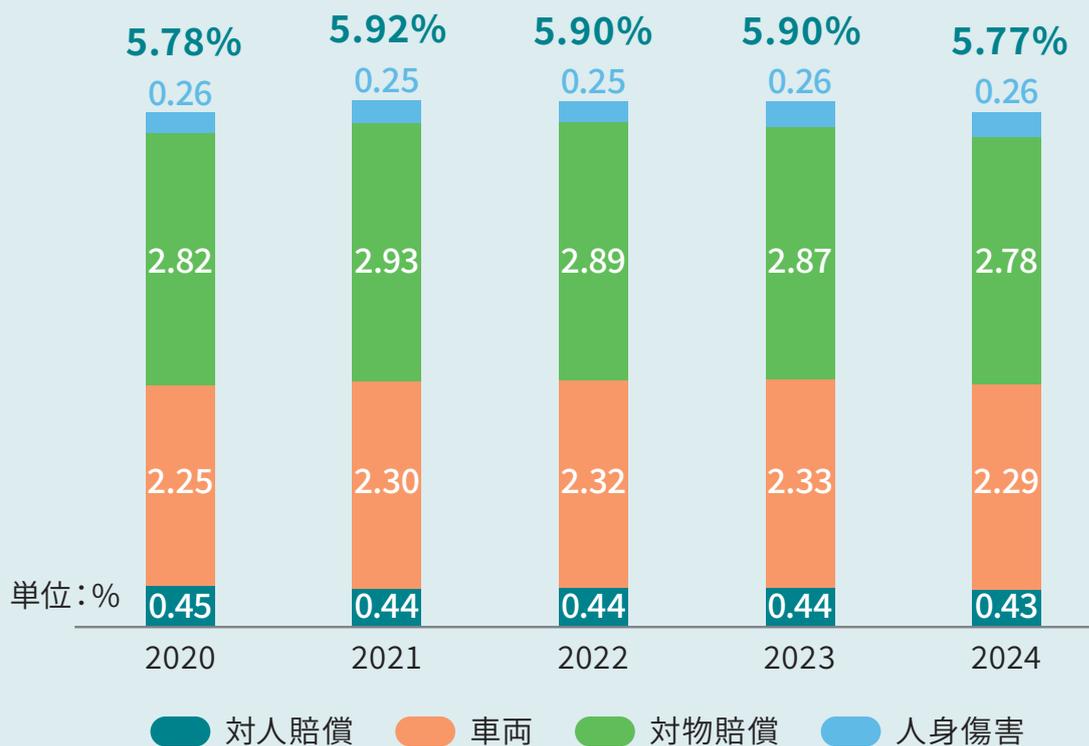
【アクサ損害保険の取扱い事故データ】

① 当社の事故発生頻度の推移

※対人賠償、人身傷害、対物賠償、車両保険の事故発生頻度（大事故および自然災害除く）

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の流行の影響があった2020年の後、若干の増加は見られるものの、横ばいで推移しています。

事故頻度の推移



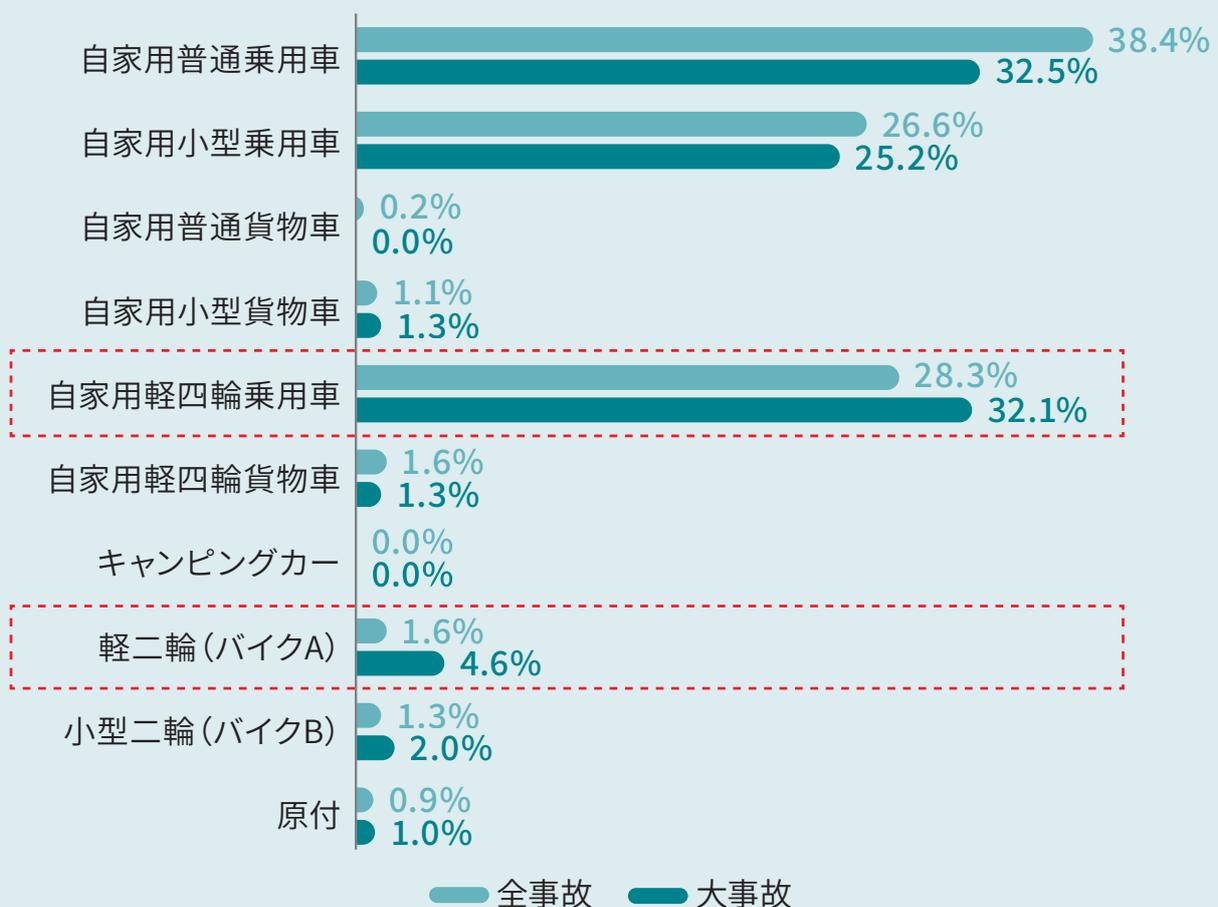
② データから見る大事故の傾向

当社が2022年～2024年に受付した全事故データと大事故*のデータを比較した結果、大事故のデータに見られるいくつかの特徴がありました。

*大事故とは「死亡」と「後遺障害」「傷害」の補償で1000万円以上の保険金支払額となる事故のことを指します。

1. 用途車種別の占有率

全事故と比較すると、大事故においては「自家用軽四輪乗用車」「軽二輪（バイクA）」の割合が高い傾向にあります。

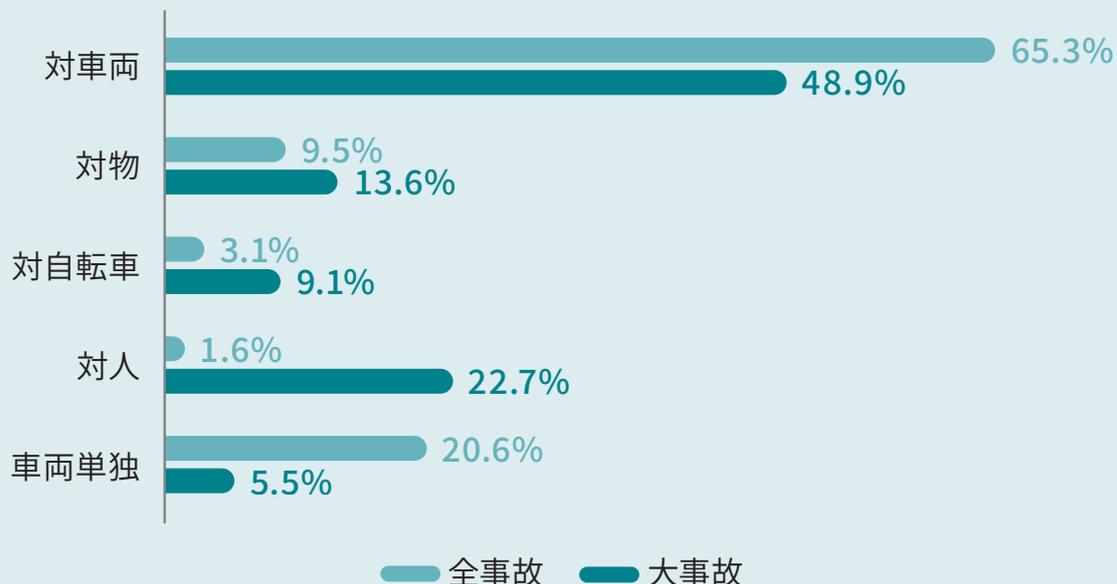


※軽二輪（バイクA）：排気量126cc～250cc ※小型二輪（バイクB）：排気量251cc以上 ※原付：排気量125cc以下



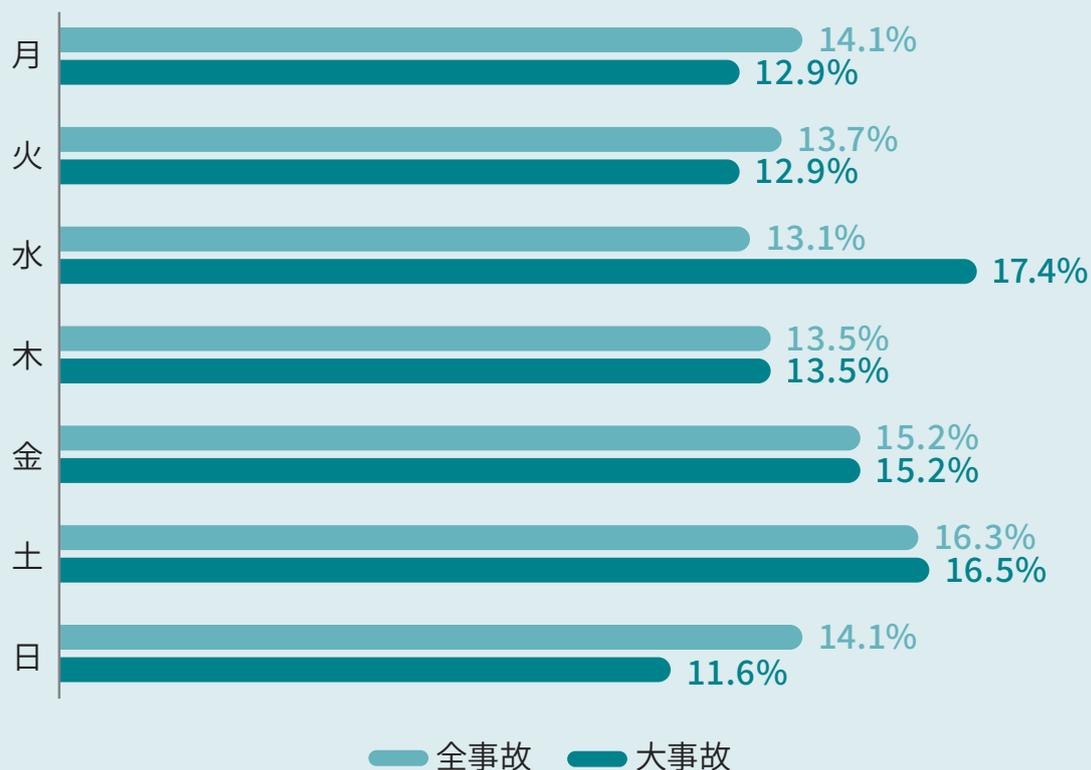
2. 事故相手別の件数比率

全事故では「対車両」「車両単独」「対物」の順で、大事故のみでは「対車両」「対人」「対物」の順で事故の割合が高い傾向にあります。



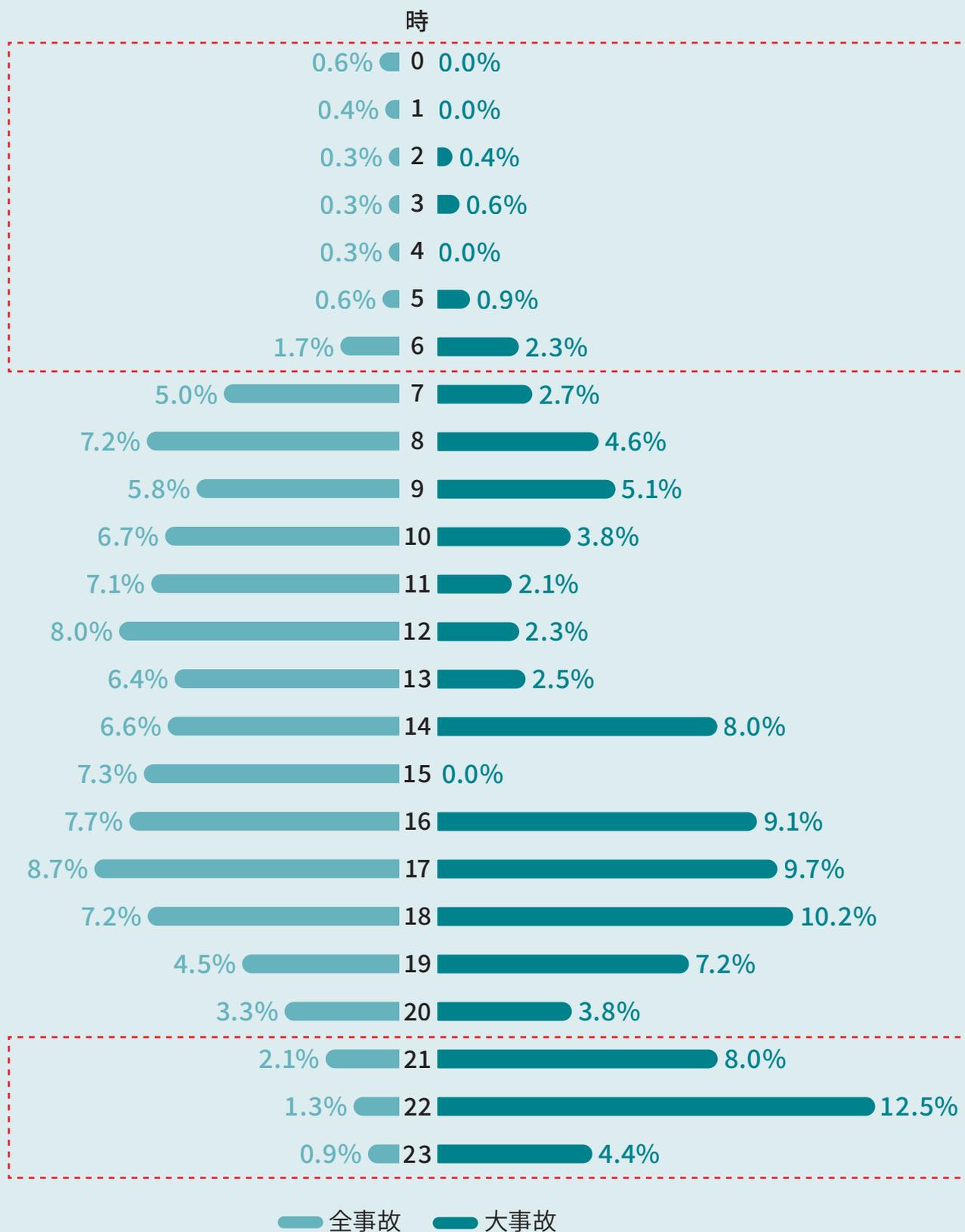
3. 曜日別の事故件数比率

全事故では土曜日と金曜日が多く、大事故のみでは水曜日が最も多く、次いで土曜日、金曜日が続く傾向です。



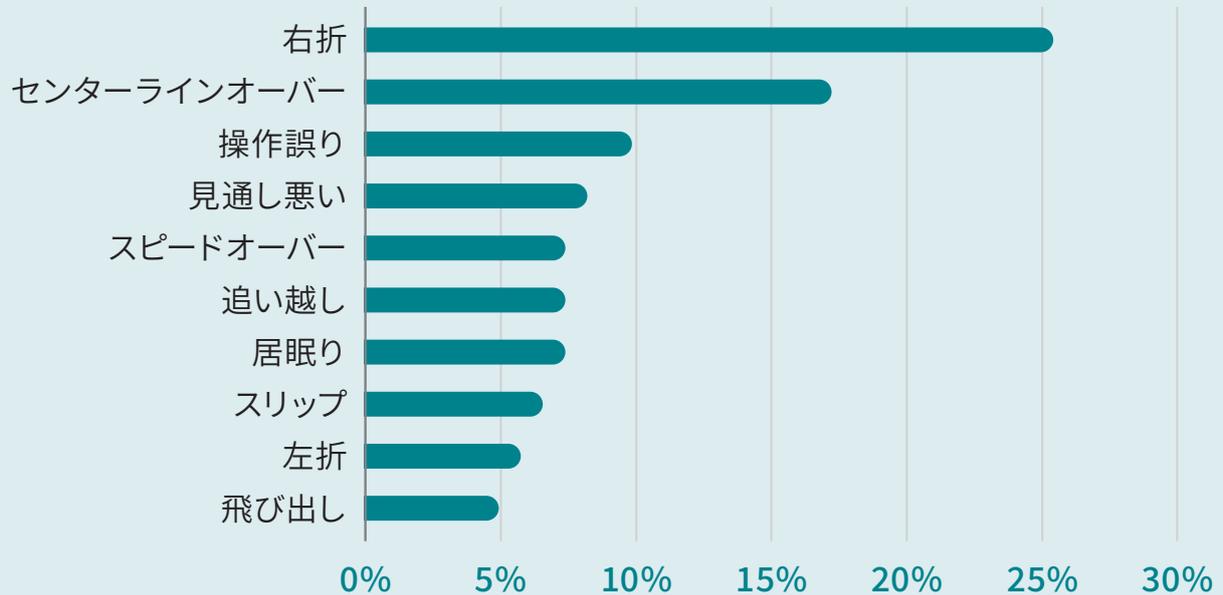
4. 時間帯別の事故件数比率

全事故では17時台が最も多く、次いで12時台、16時台、15時台が続いています。大事故のみでは、全事故と比較して21時台から6時台の事故発生率が高い傾向にあります。



③ 大事故の発生原因キーワードトップ10

右折、センターラインオーバー、操作誤りが上位となっています。



データから見える事故防止のポイント

- ・全事故では、朝夕の通勤、通学時間帯、昼時の事故が多い傾向です。これらの時間帯は交通量が多いうえ、出社時は急いだり、帰宅時は気がゆるむことが多く、薄暮時には歩行者等の発見が遅れます。また、午後は眠気に襲われることも多いです。慣れた道路でも、十分に気をつけて運転しましょう。
- ・21時以降は、大事故が多くなる傾向です。夜間はスピードを落とすなど、昼間よりもさらに注意し、安全な運転を心がけましょう。
- ・センターラインオーバーや操作誤りによる事故も多くなっています。落ち着いてアクセルやブレーキ、ハンドル操作を行うようにしましょう。



2.

疾病が引き起こす 自動車事故

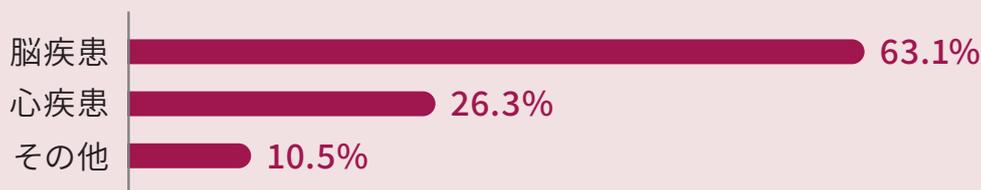
【疾病と自動車事故の関係】

病気による事故にご注意！

近年、疾病が原因となる大事故が報道されています。運転中に疾病が発症すると、車両の操作が困難となり、重大な事故につながるおそれがあります。今回は、疾病と自動車事故との関係を、2022年から2024年発生事故で、当社にて取り扱った事例をもとに分析しました（詳細調査を行った当社での事例にもとづいた分析であるため、参考例としてお考えください）。

1. 疾患部位別

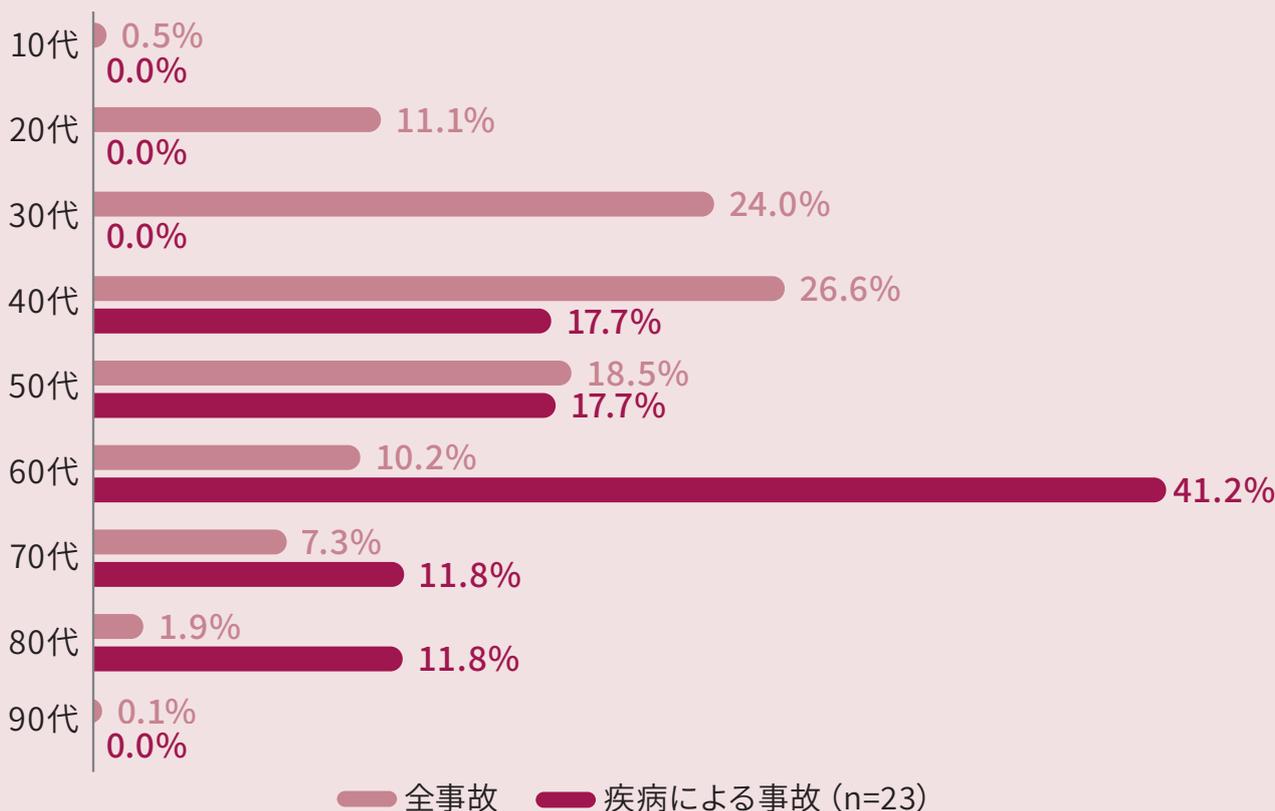
疾病が原因で起きた自動車事故のうち、脳疾患、心疾患が原因で起きた事故が多く発生しています。



※脳疾患の例：脳梗塞、くも膜下出血等 心疾患の例：心筋梗塞、大動脈解離等 n=23

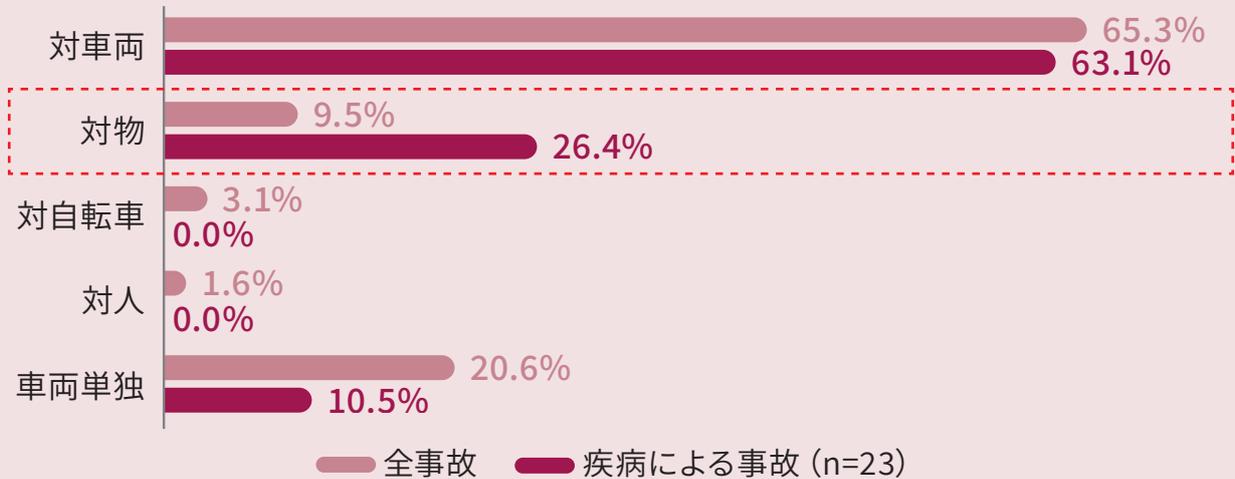
2. 年代別

全事故と比べ、疾病による事故は60代に多いことがわかります。



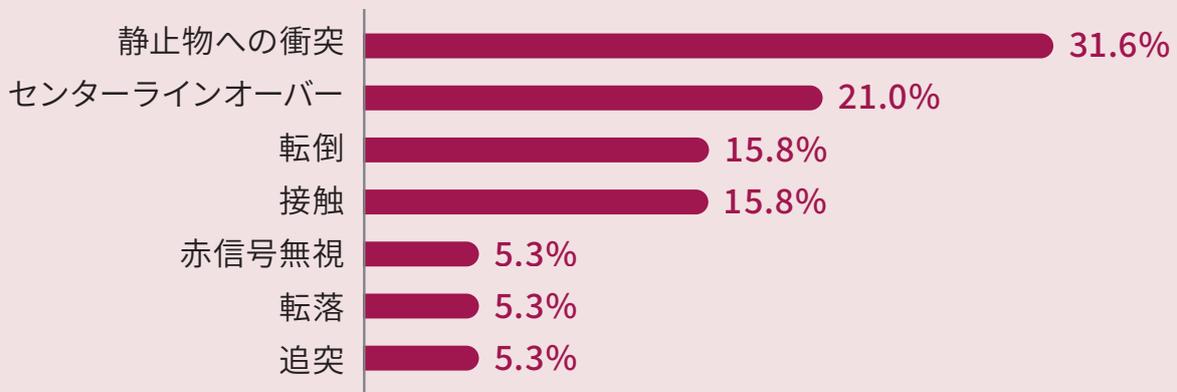
3. 事故相手別

全事故と比べ、疾病による事故は対物事故が多くなっています。



4. 事故形態別

疾病による事故は、静止物への衝突、センターラインオーバーが多くなっています。



n=23

データから見える事故防止のポイント

- ・疾病による事故は、脳疾患や心疾患が圧倒的に多いです。運転中に意識を失い、運転車両のコントロールができなくなる事故形態となります。また、60代というまだ高齢とはいえない年代に非常に多くなっています。
- ・病気は、日ごろの健康管理が大切です。定期健診等を積極的に受診することにより、予防していくことが大切です。

アクサでは、 脳や認知機能の 検査サービスを 紹介しています。

安全運転の基礎となる身体を支える
以下のサービスを提供しています。

安全運転サポートサービス

脳に関わる 各種検査のご優待

※詳細は、当社ホームページをご覧ください。

<https://www.axa-direct.co.jp/safedriving/services/>



・スマート脳ドック

指定施設にて、頭部MRI検査、頭部MRA検査、
頸部MRA検査にて、脳や頸部の血管等の異常
や出血の有無を発見することができるもので、
検査時間や受付時の無駄を徹底的になくし、
継続しやすい価格で提供しています。

スマートドック 脳の異常を早期発見できる検査

- 受付からお帰りまで30分
- 優待価格での特別なご案内
- 検査結果は2人の専門医がチェック

・Mvision health (エムビジョンヘルス)

脳の萎縮の程度と脳血管の健康度（白質
病変の量）を数値化することで、同年代の
健康な脳と比較した進行の程度や、経年で
見たときの進行のスピードを確かめること
ができます。

Mvision health 30代からの脳測定

- AI解析で脳の健康状態を数値化
- 優待価格での特別なご案内
- 結果はマイページからいつでも確認可能

・あたまたの健康チェック

電話で専門のスタッフとの会話形式で質問
に答えるだけで、現在の認知機能が、スコア
に応じて3段階で評価され、現在の状態が
一目で把握することができるサービスとなっ
ています。利用にかかる時間は10分で、専用
サイトから申込した後に、専用ダイヤルへ
電話するだけなので、手軽に利用できます。

**10分で守る
あなたと家族の
セーフティドライブ**

- ✓ 今の認知機能のコンディションを知ろう！
- ✓ 隙間時間に自宅から電話で簡単！
- ✓ 毎年継続しやすい1回3,980円（税込）

提供会社：タイヘック株式会社
本サービスではレニア社のあたまたの健康チェック®を使用します。



3.

発生件数が多い 小さな事故にご注意

【小規模事故の傾向と注意点】

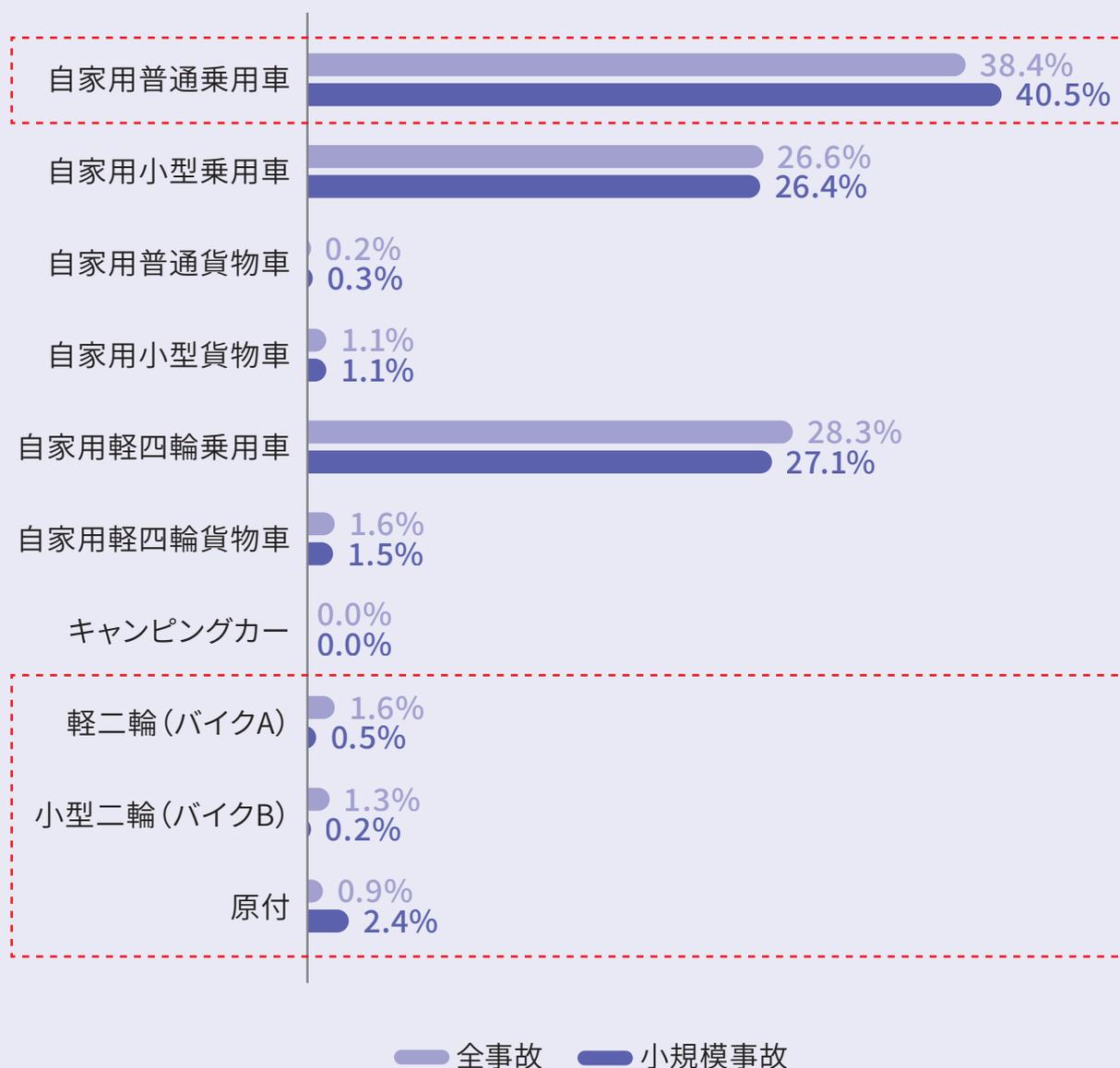
※小規模事故とは「対物賠償」「車両補償」や「対人賠償」「人身傷害」の補償で50万円以下の保険金
支払額となる事故のことを指します。また、事故全体のうち67%が当該事故となります。

小規模事故の傾向と注意点

前回の「安全運転ファクトブック2025」では、大事故（1000万円以上の保険金支払いとなる事故）について解説をしましたが、比較的小さな事故はどんな傾向があるのでしょうか。当社で取り扱った2022年～2024年発生の50万円以下の保険金支払いとなる事故（以下、「小規模事故」といいます）について、傾向を見ていきましょう。

1.用途車種別の占有率

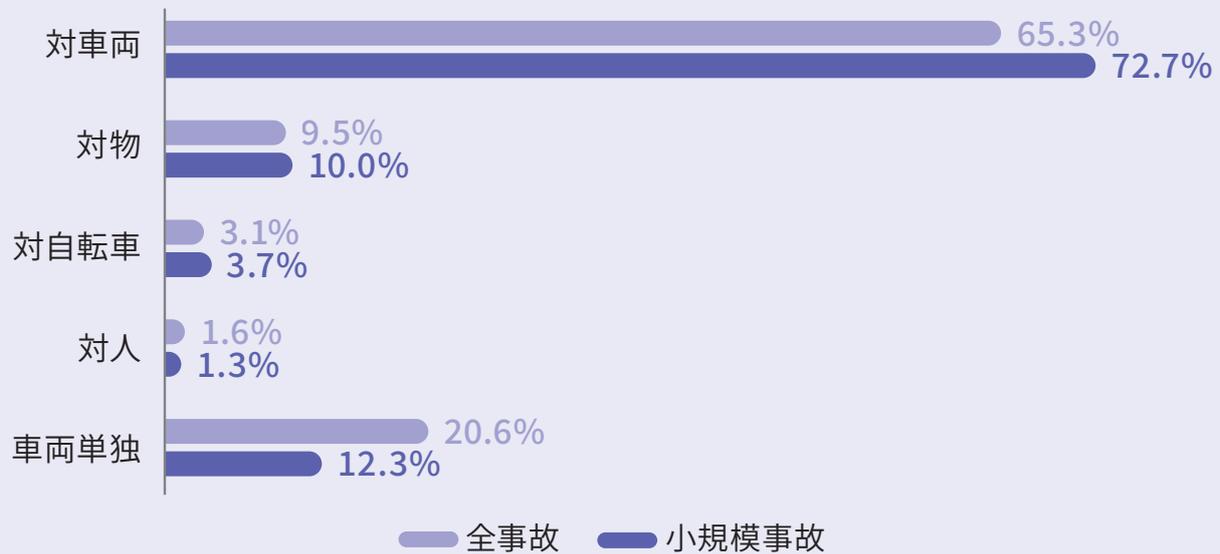
全事故と比べ、小規模事故は、軽二輪（バイクA）、小型二輪（バイクB）の事故は少なくなっていますが、自家用普通乗用車および原付の事故は多くなっています。



※軽二輪（バイクA）：排気量126cc～250cc ※小型二輪（バイクB）：排気量251cc以上 ※原付：排気量125cc以下

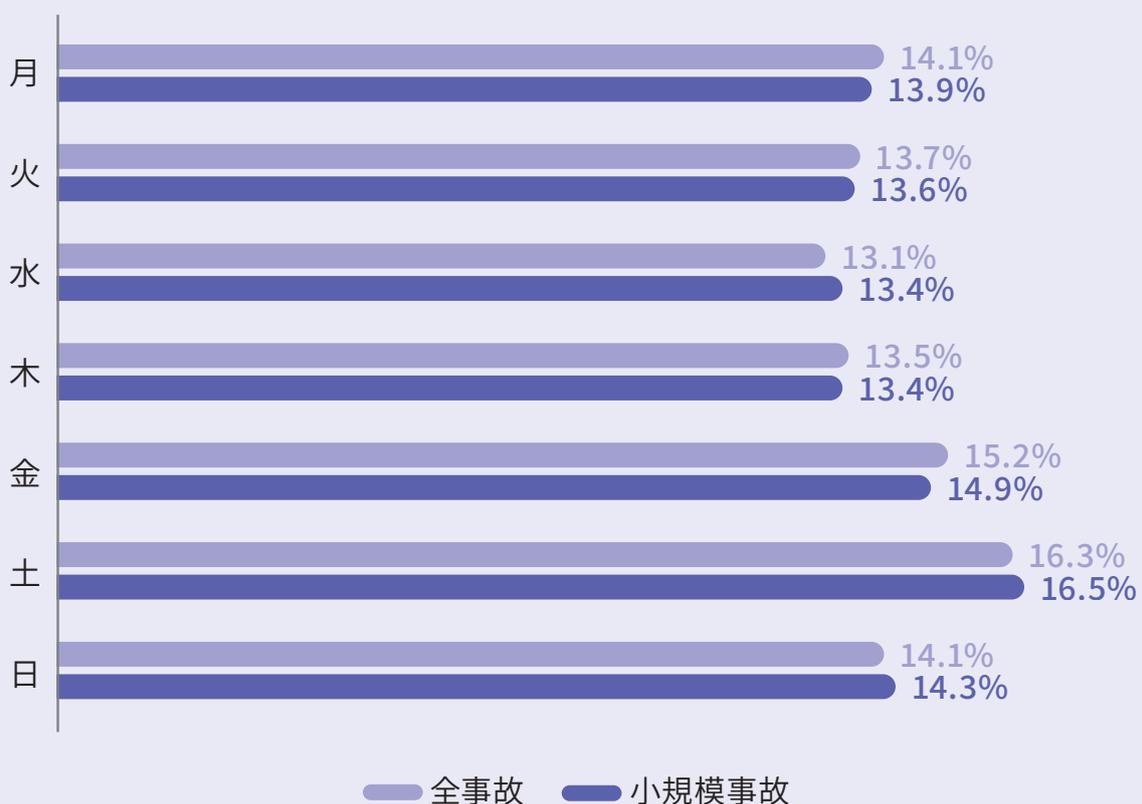
2.事故相手別の件数比率

小規模事故は、全事故と比べ「対車両」の割合が多く「車両単独」の割合が少ない傾向にあります。



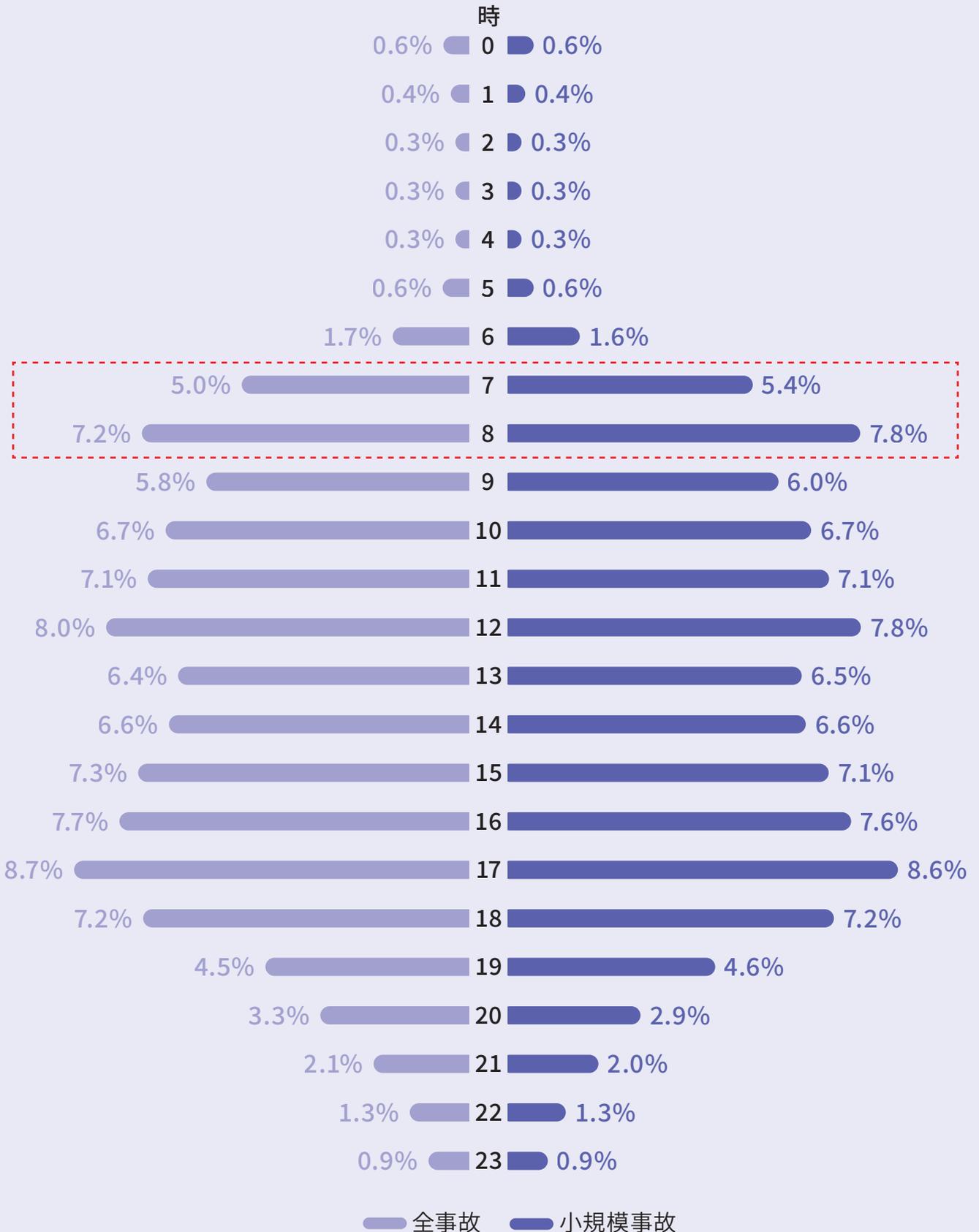
3.曜日別の事故件数比率

全事故と小規模事故の傾向に大きな差異はありません。



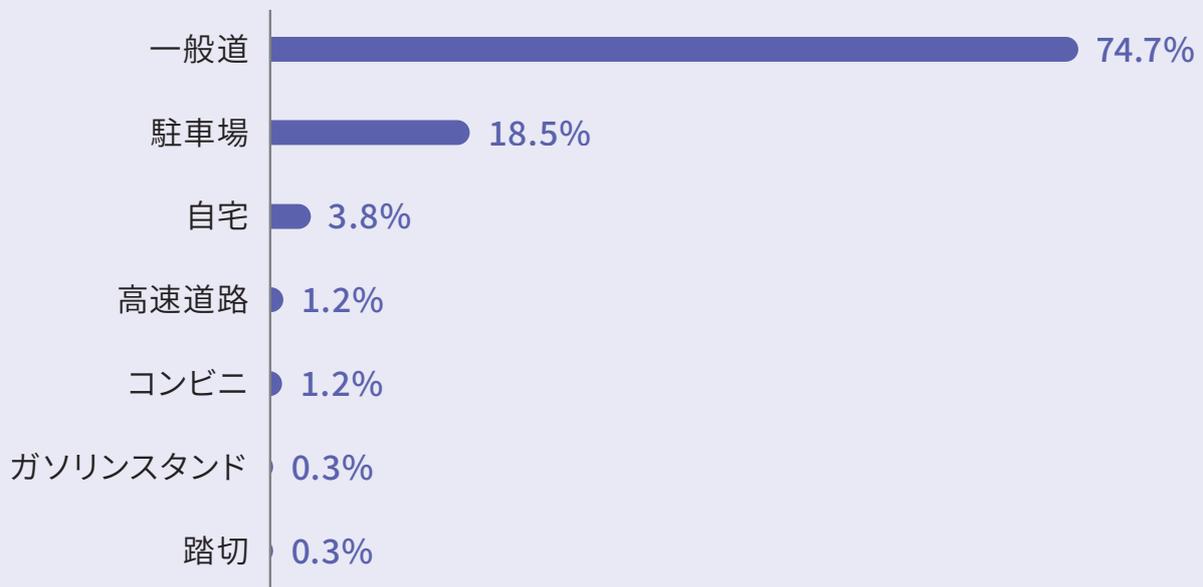
4.時間帯別の事故件数比率

全事故と比較して大きな違いはありませんが、7時台、8時台の事故発生率が少し高い傾向がみられます。



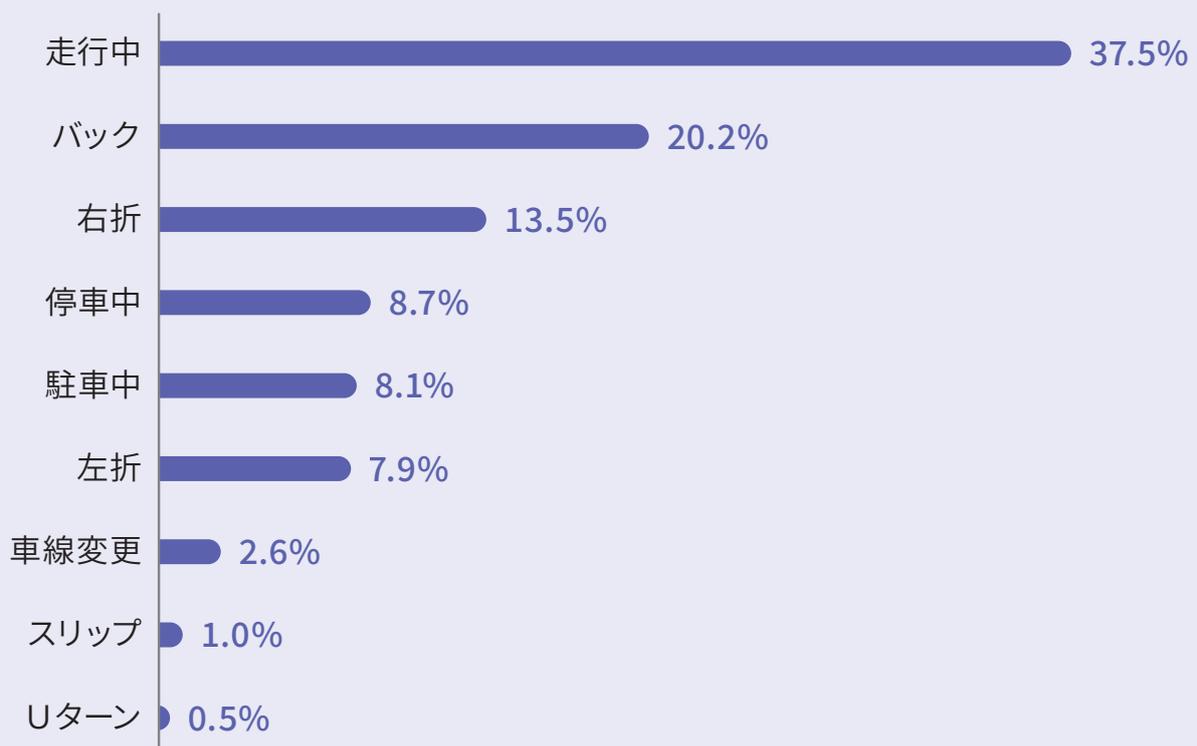
5.事故発生場所の件数比率

一般道が最も多く、駐車場、自宅が続いています。



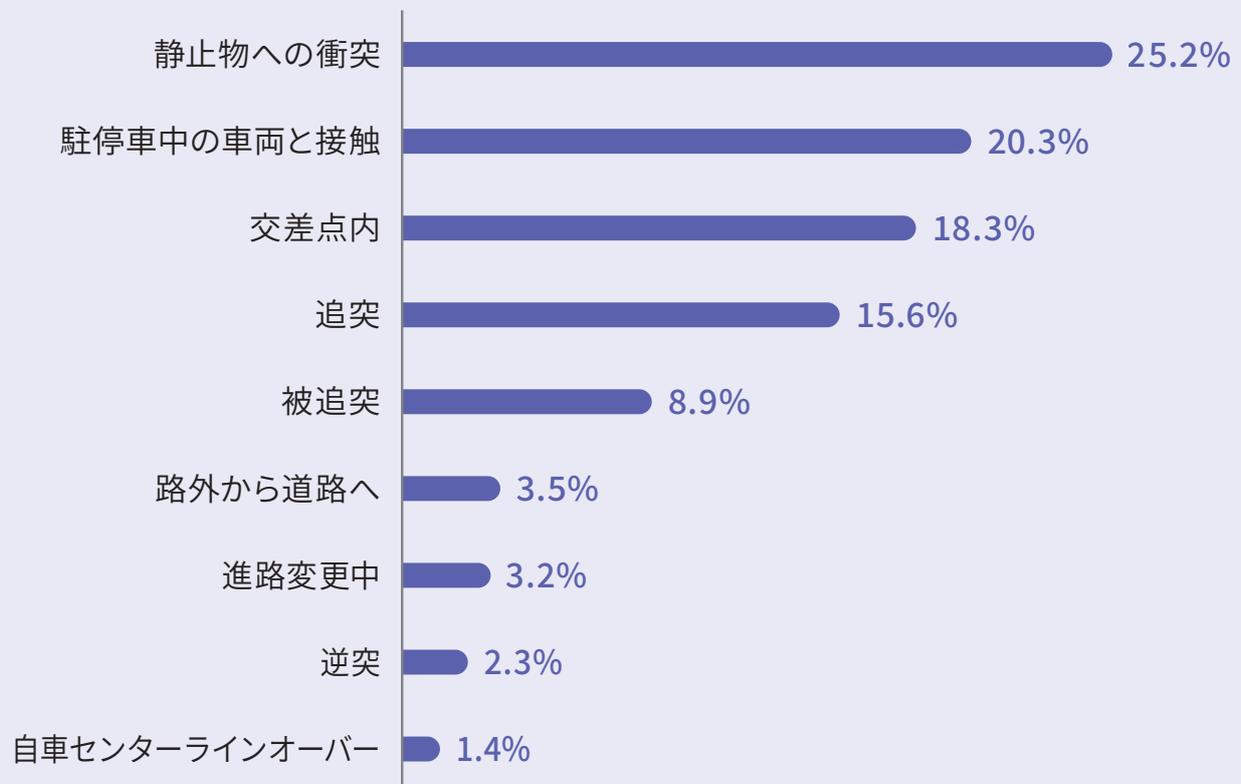
6.自動車の態様別の件数比率

走行中が最も多く、バック、右折が続き、停車中、駐車中も一定割合を占めています。



7.小規模事故の発生形態キーワードトップ10

「静止物への衝突」と「駐停車中の車両との接触」が多くなっています。

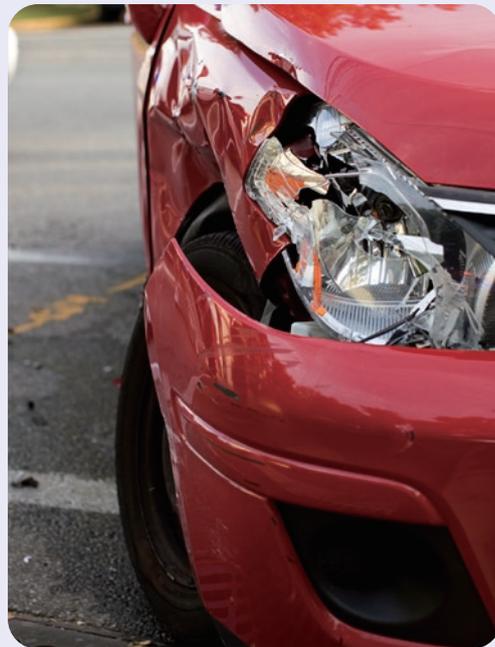


データから見える事故防止のポイント

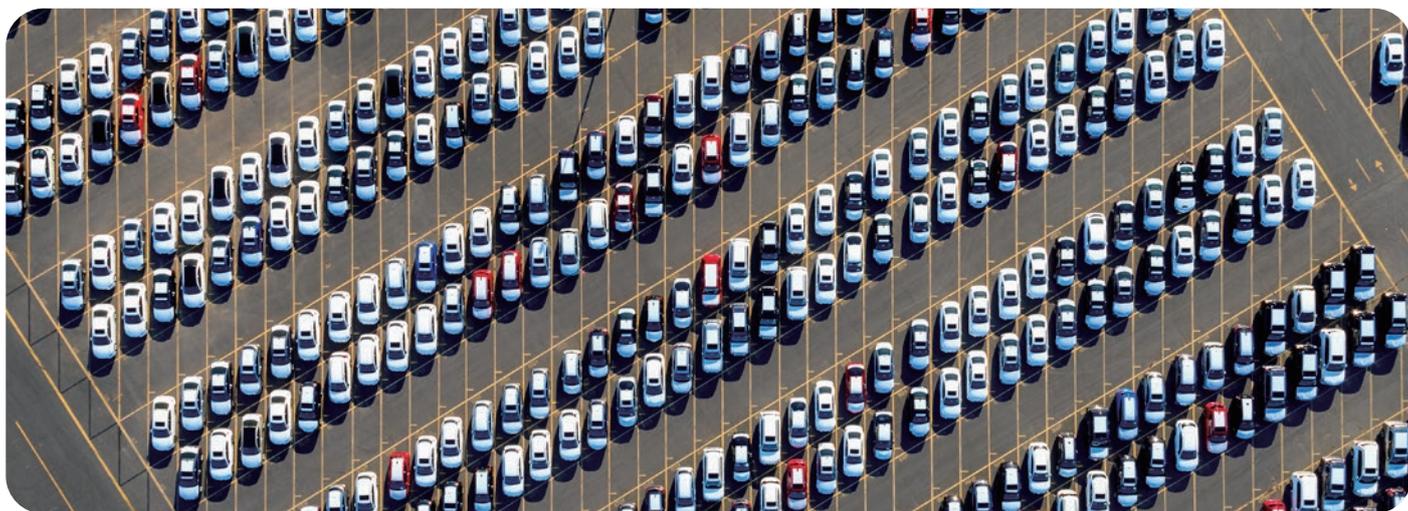
・小規模事故では、「静止物への衝突」および「駐停車中の車両」との事故が多くなっています。特に駐車スペースに入る際には注意が必要です。バックグラウンドモニターは便利なのですが、バックミラーを見ることを失念して、左右の自動車や静止物に接触するケースが散見されます。

駐車場での接触事故例

旅行中のレンタカー（コンパクトカー）での出来事です。奥まった場所に空きを見つけ、進入したところ、見た目よりも駐車スペースが狭く、さらに大型のバンとポルシェに挟まれたところであったことがわかりました。バック駐車であったため、右斜め前の空きスペースに頭から突っ込み、バックで慎重に切り返しを行ったのですが、バックグラウンドモニターと柵に気がとられ、左前部を前に停車中の自動車に接触させてしまいました。警察や保険会社への連絡と事後処理で1時間くらいかかってしまいました。



駐車スペースを探していると、幅が狭かったり、左右に大型車が停車していたりして、「ここに停められるだろうか」と少し心配に思う場所に出くわすことがあります。駐車できるかどうか判断に迷うときは、いったん車を降りて周囲を確認したり、無理をせず、より広い駐車スペースを探すなど、接触事故を防ぐ行動を心がけましょう。事故を起こすと、対応に多くの時間を要するだけでなく、その後、しばらくは後悔の気持ちが残ります。事前のひと手間が、その後の行動を円滑にし、気持ちの安定にもつながります。





4.

自動車事故は
身近にあります！

【事故経験者の体験談】

事故経験者の体験談

事故状況

ご契約者が信号のない交差点を直進走行中に、交差点の左側から直進してきた方の車両と衝突

対象の補償

対人賠償・対物賠償・人身傷害補償・車両補償



これまでは、安全に気をつけながら“クルマのある人生”を楽しんでいただけるよう、自動車事故についての様々な統計データやその分析をご紹介します。もちろん、誰も交通事故には遭いたくないと願っていますが、統計データ*によると、事故件数は年間約30万件、1日に換算すると約820件。事故はとても身近で起こっていると言えます。

ここでは、当社が事故対応をさせていただいたご契約者の事故経験を通して、事故発生から解決までの実際の流れをご覧ください。今回、撮影・取材にご協力いただいたのは千葉県にお住いのA. T. さん。4人のお子さんの子育て奮闘中です。

※公益財団法人交通事故総合分析センター (https://www.itarda.or.jp/situation_accidents) より参照

いつも通りの朝。えっ、事故？

その日は、娘を歯医者さんと病院に連れていくので、車で移動しました。とてもいいお天気で、2人で楽しくおしゃべりしながら歯医者さんへ。

歯医者さんでの治療が終わり、次は病院へ。

病院に行くには歯医者さんの駐車場を出て右折するのが近くて便利で、いつもそうしていました。でも、その日は道が混んでいて右折するには時間がかかりそうだと思い左折しました。歯医者さんから左折して出て、途中のわき道からまわって病院に行けばいいと。今考えると、広い優先道路で、信号が多い、いつもの道のほうがよかったのかなあ、と思います。

私は生まれたときからこの街に住んでいて、ほとんどの道を熟知しているのですが、ここは初めて通る道でした。

大きい道路が真正面に見える、住宅街の中のまっすぐな道を走っていたところ、バリーンと突然の衝撃音。

「ぶつかった！どこにいたの、この車？」と思いました。左の道から直進してきた車に全く気がつきませんでした。ぶつかったのは左側の後部。

娘が助手席に乗っていたので、すぐ娘の様子を確認しました。大丈夫、良かった。大したケガはしていない。



事故のとき、意外と冷静でした

車から降りて、いろいろ確認しました。意外と冷静でした。車がいつ直るかと考えられるほど冷静でした。相手の車から運転手の女性が降りてきました。お互いに挨拶をかわし、私は早速、一時停止標識の有無や、お互いの道幅の確認をしました。

その後すぐ、警察に連絡しました。警察からは、交差点の場所とか相手方がいるかなど聞かれましたが、「あ～事故の時って、こんなことを聞かれるのだなあ」と、とても勉強になりました。そう思うほど、かなり冷静に状況を見ることができ、説明できたと思います。

その後に、保険会社（アクサ）に連絡しました。

新しい車、初めての保険、初の事故。でも大丈夫でした

保険については全くわからず、事故の瞬間どうしたらいいのかと考えてしまいました。というのも、今回は新しく買った車で、自動車保険も初めて自分で加入していて、しかも初の事故です。

ですから、いつ頃解決するか、相手の方ともめないか？などと、とても心配になってしまいました。

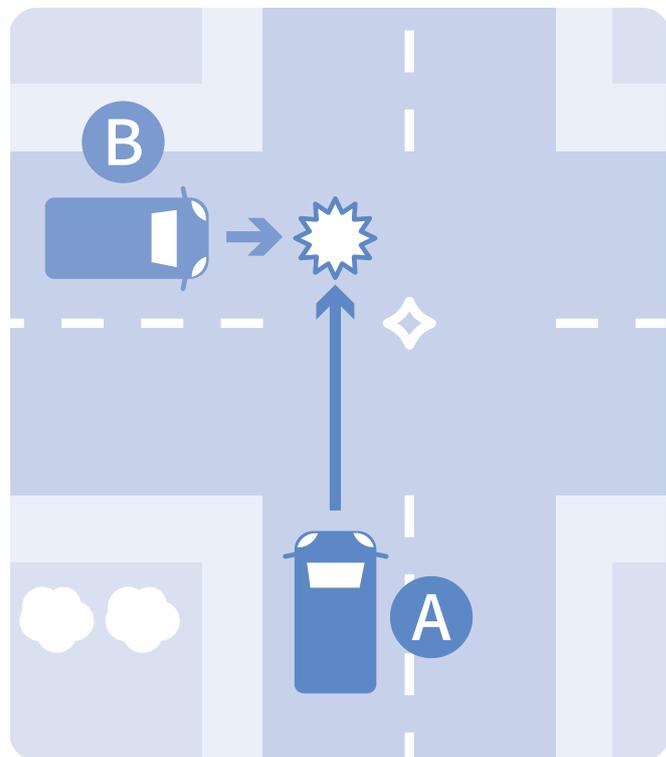
でも、心配は杞憂に終わりました。アクサの担当の方が親身になって話を聞いてくださり、丁寧に説明してくださったので不安感は消し飛びました。

過失割合は50対50じゃないの？

相手との過失割合について60対40と言われました。左方優先は知っていましたが、私はその道を既に抜けようとしていたと思っていたので、50対50と思っていました。

ドライブレコーダーを確認したところ同時くらいで、私の方がむしろ早かったかとも思いましたが、感情としては、「法律的にはわかるけれど・・・状況としてどうなのか」と最初は納得できず何度も質問しました。しかし、保険会社の担当の方が状況や過失割合についての考え方を丁寧に説明してくださり、60対40のこともしっかり納得できました。

保険会社に説明してもらうにも、「わからないことがわからない」状態で、どう聞いたらいいのかさえわからなかったのですが、こちらが話すと、丁寧にこちらの疑問をくみ取って教えてください、「あ～、それぞれ。それが聞きたかった」って、自分が欲しい言葉をくれました。すごい満足です。



進捗状況もwebで確認でき安心でした

ちょうど保険の更新時期でしたが、今回の対応でアクサを続けることにしました。万が一事故があっても、アクサなら安心だなあ、と思いました。自分の方が悪い事故だったのに、こんなに対応してくださって本当に感謝しています。

病院も薬局も、アクサから事前にきちんと連絡してくれていたのが、窓口支払いなしでスムーズに治療を受けることができました。まめに連絡をくださるので、すごく安心でした。こちらから電話したときの折電もメチャクチャ早いので、待たされている感がなかったです。

Webのマイページのチャット機能も使わせてもらいました。便利ですごくいいです。それに、対応の進捗状況もわかって、今、この状態なのだなあとわかるので、とても安心でした。

あっという間に解決・支払いも完了！

示談は2～3か月かかると聞いていました。もめたらいやだなあと心配していましたが、予定よりとても速く1か月半ほどで解決^{*}したので、びっくりしました。相手方が納得できる内容だったとのことでした。ご担当の方から、私の保険の内容が充実していたためですと、逆にほめていただきました。

※対物賠償事故

初めての道は注意！思い込みは絶対いけない！

歯医者さんの後、病院に行かなくてはいけない、と少し焦っていたのだと思います。特に初めて通る道は、注意したうえにも注意ですよ。娘とのちょっとしたドライブが楽しく、おしゃべりに夢中になって、思っていたよりスピードも出てしまっていました。

事故の起きた場所は、左右を住宅に挟まれたまっすぐな道でしたので、こちらの方が優先道路と思い込んでいました。

初めて通る道、おしゃべり、思い込み、それらがすべて事故につながったと思います。でも、相手の方もこちらも、大きなケガとはならなかったのが幸いです。

また、免許取りたての人の車に乗ると、信号で停車後発進するとき、前の車だけ見て信号を見ない人が多いですね。これも事故につながりやすいかなと思っています。事故の後は、運転していても事故につながりそうなことに気が付くようになりました。



事故を起こしたら

- ① 後から来た別の車が衝突したりしないよう、車を安全な場所へ移動してください。
 - 車を動かすことができない場合は、エンジンを切ってハザードランプを点灯させましょう。
 - 発炎筒や停止表示器材などを使用して事故が起きていることを周りに知らせましょう（二次被害の防止）。
- ② 負傷者の救護を最優先し、119番に連絡してください。
 - 負傷者を安全な場所に移動させる必要があるときは、動かさない方がいいケースもありますので、消防署に確認しながら負傷者を移動してください（負傷者救援）。
- ③ 警察へ連絡しましょう（110番）。
- ④ 相手方や事故現場などについて、以下のことを確認しておきましょう。
 - 相手方について：氏名、住所、連絡先
 - 車について：種類、ナンバー、所有者の住所・氏名（車を運転している人と所有者が異なる場合があります）
 - 加入している保険会社の情報：保険会社名、（可能なら）補償内容など
 - 事故の状況について：事故の起きた場所、車の破損状況、目撃者がいるかなど

ご注意ください

- 交通事故の場合、運転者などは警察に届ける義務があります（道路交通法第72条1項）。事故の大小に関わらず、速やかに警察へ届出をしてください。
- 保険金を請求する際に、交通事故の事実を証明する「交通事故証明書」が必要な場合があります。この証明書は、警察へ届出をしないと発行されません。（警察への連絡）
- 事故について、相手の方との具体的な損害賠償の話し合いや、念書の取り交わしなどは行わないでください。

アクサの事故対応【事故発生時】

ご契約者様から事故のご連絡をいただいた場合、アクサは以下のことを行います。

＜ご契約者様へご連絡＞

- 事故の専任スタッフから事故状況、車の破損状況、事故の相手方の情報などを確認させていただきます。
- 車の修理工場、過失割合、手続きに必要な書類などについてご説明します。

＜事故の相手方（相手方保険会社）へ連絡＞

- 事故状況の認識にご契約者様と相手方との相違がないかを確認させていただきます。
- 車の損害確認方法や過失割合など事故解決に向けた話し合いを開始します。

＜相手方におケガがある場合や、人身傷害補償をご契約されていてご契約者様などにおケガがある場合＞

- ケガをされた方に、症状と、受診されたまたは受診する医療機関を確認します。
- 医療機関に、治療費の精算方法について確認します。

アクサの事故対応【修理や治療が終わるまで】

＜物損事故の場合＞

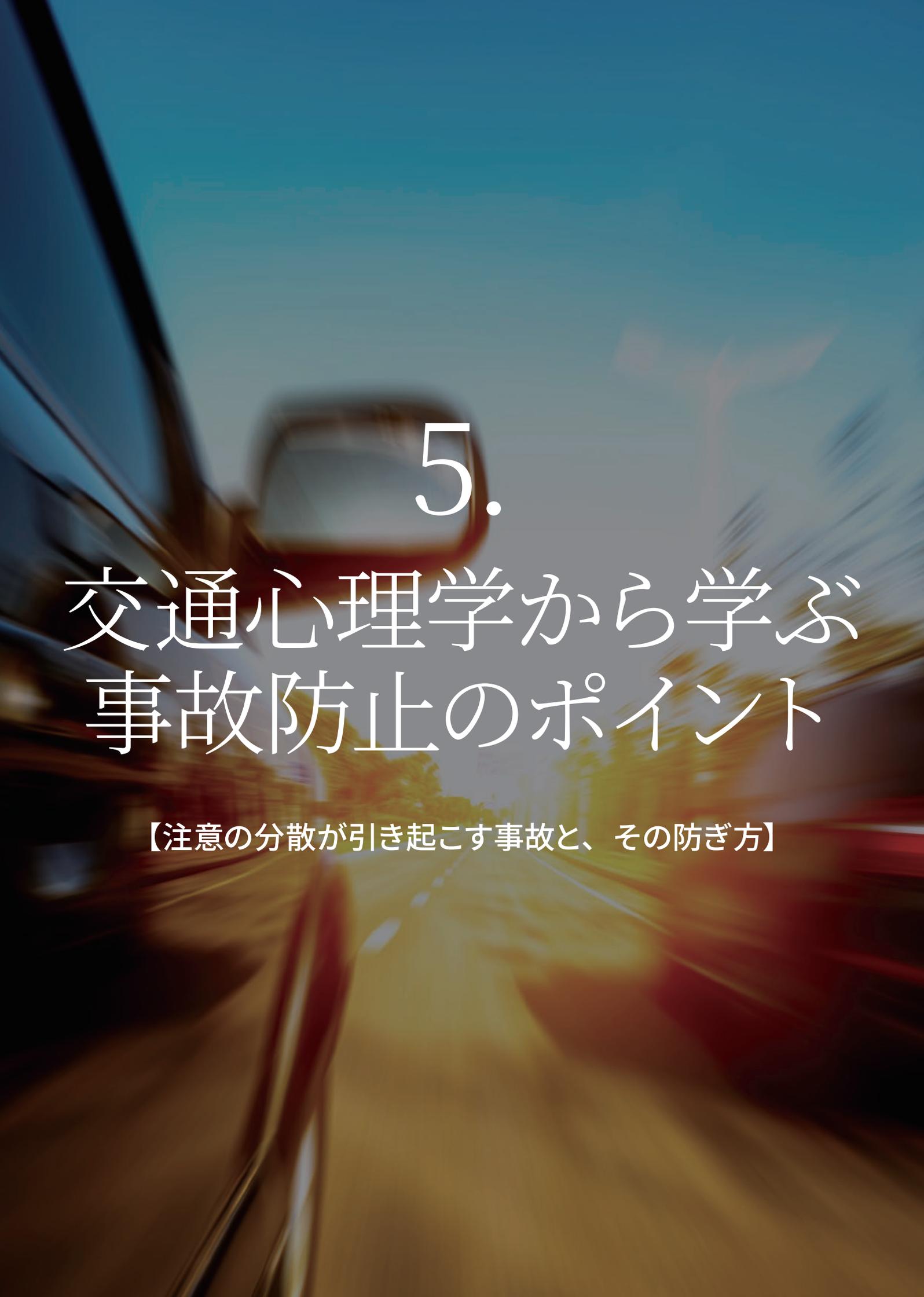
- 車の損害状況を確認・調査し、損害額を確定させます。
- 双方に過失割合がある場合は、過失割合の話し合いの状況を連絡させていただき、過失割合確定前の最終確認をします。

＜人身事故の場合＞

- おケガされた方に定期的に症状や治療の状況、間接的な損害がないかを確認し、必要に応じて休業損害など賠償範囲について打ち合わせを行います。
- 病院等から送られてくる診断書などを確認し、治療費をお支払いします。

アクサの事故対応【事故の解決】

- 損害額や保険金の認定額を確定していきます。示談書（承諾書）を取り交わして解決となります。



5.

交通心理学から学ぶ 事故防止のポイント

【注意の分散が引き起こす事故と、その防ぎ方】

事故は「見えてない瞬間」に起きる

自動車事故の多くは、ちょっとした不注意による小さな事故として起きています。こうした事故の多くは、「危険な運転をしていた」からではなく、「注意が一瞬それていた」「見ているつもりだった」という瞬間に生じています。交通心理学の視点から見ると、その背景には、ドライバー自身も気づきにくい注意の分散が関係していることが少なくありません。

① 人間の注意力には限界がある

運転中はすでに、

- ・周囲の確認
- ・危険の予測
- ・ハンドル操作
- ・速度調整（ペダル操作）

など、多くの情報処理を同時に行っています。この状態でさらに別のことに意識を向けると、運転に使える注意の量は必ず減少します。

その結果、

- ・危険への気づきが遅れる
- ・判断が遅れる／判断を間違える
- ・ハンドル操作やペダル操作が間に合わなくなる

といった形で、事故につながるリスクが確実に高まります。

② 「自分は大丈夫」という気持ちで、注意の分散に気づかせない

ドライバーは、

- ・少しだけだから
- ・短時間だから
- ・自分は慣れているから

と考えてスマートフォン利用やナビ操作をしがちです。これは過信や正常性バイアスと呼ばれる心理状態で、事故を引き起こす大きな要因の一つです。

実際には、時速50kmで走行中に2秒間注意を外すだけで約28mも車は走行します。その間に歩行者や自転車が現れると回避はきわめて困難です。事故は「危険だと分かっていたから」ではなく、「自分は大丈夫だと思ってしまったから」起きることが少なくありません。大丈夫だと思って、運転以外のことに注意を分散させてしまっているわけです。

3 前方を見ている、注意は運転から離れる

注意が分散する運転状況というと、多くの人は前述のながら運転を思い浮かべます。しかし、実際には、

- 同乗者と会話しながらの運転
- 考え事をしながらの運転
- 音楽などに過度に心が奪われた状態での運転

などのような場合でも、視線は前を向いていても、運転以外のことに注意や思考がとらわれてしまい、危険な状態が生じることがあります。

とくに、同乗者との会話では、

- 感情が大きく揺さぶられる話題
- 仕事や悩みなど、考え込んでしまうような話題
- 怒り・焦り・不安など、強いストレスを感じさせる話題

は、会話に気を取られてしまいやすくなります。同乗者との会話そのものが、危険を招く行為になるわけではありませんが、「運転中は運転が最優先、会話はその次」という意識の切り替えが、事故防止のうえできわめて重要です。

また、会話はしていなくても、仕事や人間関係など精神的な負担を感じさせるような考え事にとらわれている状態は、同様に注意が分散しやすく、事故のリスクを高めます。

4 注意の分散による事故を防ぐ3つのポイント

注意の分散は誰にでも起こります。しかし、日常の運転の中で次の3つを意識するだけで、事故のリスクは確実に下げることができます。

- 1) 運転中は、常に運転を最優先にする
- 2) ナビやスマホを操作する必要があるときは、安全な状況で行う
- 3) 「自分は大丈夫」と思った瞬間こそ、本当に大丈夫かを問い直す

5 まとめ — 事故は「運転技術」より「注意の保ち方」で防げます

交通事故の多くは、運転技術の不足そのものよりも、無自覚のうちに働いてしまう「注意の分散」「油断」「過信」といった心の働きによって起こります。

どれだけ運転に慣れていても、運転以外に注意が向いてしまえば安全運転はできません。日々の運転の中で、「今、自分は運転にしっかりと注意を向けているだろうか」と意識することが、最も確実な事故防止策になります。

志堂寺 和則 先生（監修および5章コメント）

九州大学大学院システム情報科学研究所 情報学部門 教授

九州大学大学院統合新領域学府オートモーティブサイエンス専攻 教授

自動車運転者の心理特性、事故防止に関する効果的なシステム、交通安全教育法等のオートモーティブサイエンスを研究。

日本交通心理学会 副会長、主幹総合交通心理士（日本交通心理学会認定）、日本交通心理士会 常任幹事、日本心理学会諸学連合 心理学検定局運営委員。

著書は、「交通心理学入門」（企業開発センター交通問題研究室：分担執筆）、「交通心理学」（北大路書房：分担執筆）、「大切な親に、これなら「決心」させられる！ 免許返納セラピー」（講談社：監修）など多数





6. アクサが行う 安全運転啓発室の 取組み

【自動車事故の減少に向けて】

2025年の主な活動

① 安全運転ファクトブック2025の発刊

アクサ損害保険の事故データ分析結果から導き出された自動車事故防止のポイントや大事故の注意点をまとめたもので、皆さまの日常を守るためのヒントが詰まっています。2026年版とあわせ、ぜひご一読いただき、自動車事故を防ぐための一助としてご活用ください。

※2025年版目次

- ①最新データで見る事故のリアル【アクサ損害保険の取扱い事故データ】
- ②大事故データに見る発生原因【発生原因のキーワード】
- ③大事故から導き出される事故防止策【事故原因のキーワードトップ5】
- ④交通心理学から学ぶ事故防止策【右折事故防止のポイント】
- ⑤知識が助ける事故発生時の正しい対応方法【事故解決までに注意したいポイント】



② 新規1契約100円キャンペーン

交通秩序の確立と交通安全の実現に向けて広く活動する「一般財団法人全日本交通安全協会」の活動に協賛しています。自動車事故防止活動の推進を目的として、2025年1月1日～12月31日に当社でご契約いただいた新規契約数当たり100円を協賛金として、全日本交通安全協会の自動車事故防止活動に事業費から拠出します。



3 マイカー広告による安全運転啓発キャンペーン*

全国のドライバーに協力をいただき、安全運転のメッセージをステッカーにして車のリアウィンドウに貼り、全国で走行しています。このキャンペーンは、運転中に後方のドライバーや歩行者にも安全運転を呼び掛ける目的で実施されました。

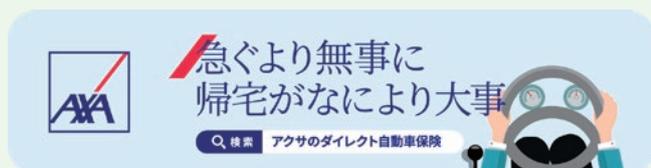
*本キャンペーンは、マイカー広告「CheerDrive」を活用して実施したものです。

キャンペーンステッカー（リアウィンドウ）



車内から外側が見える
シースルーフィルム

ステッカーは4種類



4 保護誘導活動（旗振り活動）

お客さまの安全運転にいつも伴走するパートナーとして、各拠点において、従業員によるボランティア活動の一環で「保護誘導活動（旗振り活動）」を実施しており、その活動を会社がバックアップしています。



(東京・白金)



(東京・田原町)



(福井)



(高知)



その他のアクサの
安全運転啓発活動の
詳細は、こちらから
ご確認ください。



アクサは安全運転啓発に取り組んでいます。

アクサは、お客さまをはじめ、クルマを運転するすべての方が大切なものを守り、自分らしい人生を歩んでいただくために、安全運転啓発活動を進めています。これらの活動には、“クルマとともに営む一人ひとりの人生を守りたい”という想いが込められています。

私たちは、自動車保険を扱う損害保険会社の責務のひとつとして、「自動車事故を少しでも減らすにはどうしたらよいか」を日々考え続けています。

ここに掲げた活動は、その目的の達成のために
私たちが取り組んでいるものの一部です。

ひとつひとつの取組みは、小さなものかもしれませんが、
その積み重ねがいつの日かきっと
「事故のない世界の実現」につながると信じ、
これからも安心・安全なカーライフに役立つ情報やサービスを探究し、
みなさまに提供し続けてまいります。



アクサは安全運転啓発に取り組んでいます。



アクサ損害保険株式会社

東京都台東区寿2-1-13 偕楽ビル